

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第3回近江八幡市オーガニックビレッジ推進検討会		
開催日時	令和8年3月12日（木） 14:00～15:40		
開催場所	近江八幡市役所 委員会室2 (住所：近江八幡市桜宮町236番)		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>※出席委員（敬称略、順不同） 仁連孝昭（◎）、田口真太郎、秋村田津夫、大西實（○）、 鬼海航太、山本航平、小玉恵（山本昌仁委員代理）、 上野哲平（和田洋委員代理） 中尾星志（オンライン参加）</p> <p>※欠席委員（敬称略、順不同） 秋津元輝、尾賀康裕</p> <p>【事務局】 総合政策部企画課 課長 武田善雄、課長補佐 東有希、主査 中川郁 主事 野田卓治 産業経済部農業振興課 課長 川村忠基、課長補佐 木村知明、主事 漁野智</p> <p>※その他、株式会社坂ノ途中より2名同席いただいた。</p>		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所 属 名 : 総合政策部企画課 担当者名 : 中川 郁 電話番号 : 0748-36-5527 メールアドレス : 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約した理由	会議が長時間にわたったため、内容を整理して、分かりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

事務局

開 会 省 略

会 長

挨拶

- 調査をしていただいて問題点が浮き上がってきた。
- 近江八幡市らしいオーガニックビレッジを進めていくため、具体的なアクションを皆さまと共有しながら進めていきたい。

(株)坂ノ途中

議題1 有機農業推進に係る調査報告及び提案について

(資料1に基づき、(株)坂ノ途中より調査内容の報告及び次年度以降に向けた提案を行った。)

会長

- アンケートを実施した生産者39名はどのような方を選定したか。また、需要側についても、その7事業者はどのような事業者を選定したか。

事務局

- 生産者は、環境保全型農業直接支払交付金の有機農業に取り組んでおられる生産者や、水郷ブランドの認証を受けている減農薬、減化学肥料で取り組んでいる生産者を選んだ。

(株)坂ノ途中

- 事業者は、ホテルや直売所など業種を分けてその中でどういったニーズがあるかを把握したいという意図で選定した。

- また、健康経営優良法人に関しては、食品業界ではない法人にもニーズを聞いた方がよいと考え、従業員の健康などに力を入れている事業者であろうという前提のもと、近江八幡市に所在地がある法人を選定した。

会長

- 有機農業に対してまだ積極的ではないという理解でよいか。

(株)坂ノ途中

- おそらく近江八幡市では米が中心ということもある。有機農業に最初に取り組みやすいのは畑作の方なので、米が中心だと農機具も必要となり、誰でもできるわけではない。

委員

- 調査を通じて全体的な感想はどうか。

(株)坂ノ途中

- 第一に感じるのは有機農業の生産者がそれほど多くないということ。米が中心だから簡単に入れないというところがあると思う。

- 山梨県北杜市は9割が新規参入でほとんどが畑なので、作物の違いというのは非常に大きいという印象を受けた。

- しかし、近江八幡市でも一生懸命自分で販路を開拓されている方がいるというのは一つ希望だと思う。

- ただ栽培で苦労されているところが多いので、そこがクリアできるようなサポートが一番大事かと思う。また、売上規模を少し拡大して、1,000万円前後にするようなサポートをするとよいのではないか。売上が1,000万円前後の段階では、資材費は相対的に下がってくるが、人件費が上がり始める前であるため、非常に利益率が高くなる。

- 先駆者として売上が1,000万円前後になると、成功モデルとして地域での波及効果が期待できる。

委員

- 生産者は利潤の追及が前面に出て、消費者が質を求めているというムードをつくっていかないと、経営の中でも転換が図れない。

- 最近では、農産物にこだわっている事業者も増えてきているので、行政がリードをしていかなければならない部分だと思う。

会長

- 有機農業にもっと多くの生産者が取り組んでいくというのはなかなか厳しいというのが今回の報告からでてきたと思う。

- 生産者に対する支援の仕組みをつくっていただけでは進まない。有機農業に取り組むことが、ブランドや別の価値があるというところからいかないといけない。

- (株)坂ノ途中

 - 地域での取組を消費者が理解し、需要が生まれて、生産者が有機農産物を作っていく仕組みが大事だということを今回の報告書は浮き彫りにしたと思う。
 - 同じものを食べるのでも、食材を買ってきて家で調理するときのお金のかけ方と、レストランで食べる時のお金のかけ方は違うと思う。
 - 地元の理解は大事で、豊岡市はふるさと教育として、豊岡市の自然や産業、コウノトリの話をしている。だから、コウノトリを育む農法で育てた米を食べることがどういうことなのかを理解できている。コウノトリの活動は30年になる。
- 委員

 - 権座での取組は18年になる。
 - 自分たちが好きでなければならない。近江八幡市には宝物がたくさんある。琵琶湖や西の湖などの自然を守るといってやってきたが、それをまとめる力が乏しいので、水郷＝オーガニックのまち近江八幡としたい。
- 委員

 - 今回の調査の結果で近江八幡市の特徴が見られたのかどうか教えていただきたい。
- (株)坂ノ途中

 - 稲作地域の特徴として新規参入が少ない。また、販路の傾向は、他の自治体と大きくは変わらないと感じた。最初は近くから始めて、ある程度の規模になって販路開拓をしたときに、全国流通に乗っていく。
 - 思ったより栽培が大変で栽培方法が確立されていないという方が何人もいた。
- 委員

 - お互いに情報交換してよいやり方を見つけていく段階だと思った。他地域の有機農業者の情報を近江八幡市にも提供いただいて、今後の活動を検討できればよいのではないかと。

議題2 令和7年度取組及び令和8年度の事業案について
(資料2、参考資料2に基づき、説明を行った。)

- 事務局
- 委員

 - 難しい現状でも有機農業をやるといった姿勢が無ければ、何度集まって議論をしても同じ結果になってしまう。日本の食料自給率の問題と関連して課題解決に繋がる取組が無ければわくわくせず、話が進まないように感じる。
- 委員

 - 無農薬、無化学肥料の取組を進めている。栽培技術の確立が難しいというところで、機運の醸成と並行して新規就農を含めた有機農業者が自分たちのつくっているものを皆さんに食べて欲しいということを一体的に進めていく上で、我々の役割は大きいと思っている。
 - いすみ市に研修をさせていただいたが、学校給食の取組で残食が減り、移住者も増えてきたという状況も聞いた。その裏側では、熱量の高い方が取り組める制度と仕組みづくりがしっかりと成り立っていると感じたので、近江八幡市においても制度をつくっていくことが重要。その中でも、食育が一つのテーマになると思う。
- 委員

 - 有機水稲栽培の省力化や生産がどうスムーズに広がっていくかを現在実証しているので、次年度も続けていきたい。
 - 水稲栽培する生産者が多いが、新規で、畑作物や園芸品目を全般的にしたい方々もおられるように思う。
 - 他の地域では特定の生き物やまちの特産物などをシンボルとして取り組まれていると感じている。近江八幡市の特産物として北ノ庄菜などが挙げられるが、滋賀県全体では米どころのイメージが強いので、お米にターゲットを絞って、それぞれの生産者がつくったお米でおにぎりの食

- 委員 ■ ベ比べなどの企画も面白いのではないかと。
 ■ 有機農業に取り組もうと思うと、水稻、麦、大豆のローテーションがあるので地域内での理解がないとなかなか進みづらい。進めていかないといけないと思っはいるが、どれだけやりたい農家がいるのか疑問に思っている。
- 委員 ■ 「魚のゆりかご」というのを見たことがあるが、そういうのがよいと思う。
 ■ 琵琶湖の水質は課題である。琵琶湖の水質にとって有機農業が良いものであると理由づけができるのであれば、施策として推進する意義があると思う。
- 会長 ■ 西の湖は一番大きな内湖として残っているが、魚だけでなく野鳥なども含め、西の湖を大事にするということは地域にとっても大きな課題だと思う。
 ■ 西の湖のヘドロをあげて肥料にする取組などもまさに有機農業で、そういったことが大事だと感じる。
 ■ 有機農業から出発するのではなく、西の湖を守るところから出発すれば、有機の取り組み方も違う価値があることをしていると、消費者にも示せるのではないかと。そういった戦略や考え方を共有しないと前に進まないと思う。
- 委員 ■ ベトナムの山奥の一軒家で青年が農業に取り組んでいる動画がある。ここでは、全部手で刈っている。近代化によって利便性が求められ、農業に対する精神が壊れていると感じる。
 ■ オーガニックを進めるために、個人的に一番早い方法は学校給食だと思う。学校給食に1日だけ、月1日だけでもオーガニックの日を設け、子どもや親を通じて広めることが大事な施策の一つではないかということ提案したい。
- (株)坂ノ途中 ■ 有機農業を他の目標を達成するためのツールとして使っている自治体がうまくいっている印象がある。
- 委員 ■ 地域おこし協力隊について、どのくらい募集があったのか、ニーズを聞きたい。
 ■ また、先ほどのデータで、有機農業者の1,000万円以下の収入の方々をいかに地域内で買い支えできるようにしていくのかを逆算して、大きな目標とするとよいと思う。そのために、今回のアンケートの調査対象だけでなくもっと事業者の開拓が必要である。BtoCもBtoBも必要と考える。
 ■ 近江八幡市内で育った子どもたちの中で将来的に農業をしたい子は少ないのではないかと。これは、子どもたちが農業に関わる機会が今は少ないと思うので、農地や西の湖を最大限活用して、ここを守りたいと人たをどれだけ育てられるかが重要な取組だと思うので取り入れていただきたい。
- 委員 ■ 有機農業をされている方はプライドを持っている。そういった生産者の方に来てもらって話してもらってはどうか。
- 委員 ■ 近江八幡市は全国的に見ても水稻に偏っているが、これは滋賀県全体の特徴でもあると思う。近年の農地の集約化の中で、どうしても慣行にならざるを得ないという状況もあり、経営のバランスも含めて、見ていくべきところもあるのではないかと。思った。
 ■ 有機に取り組む意義は非常に大きいので、強制するのではなく、経営者が一部だけでも取り組んだ方がよいのかもしれないというようにマインドを変える取組をしていただくのが一番よいのではないかと。

委員

- やはり学校給食が、需要と地域への普及という点で一番よいのではないかと感じている。近江八幡市が米に偏っていることはメリットでもあると思う。給食で有機の米を提供することが明確に決められると思うので、実際に行動に移せるとよいと思う。

事務局

- 先ほどの地域おこし協力隊の募集について質問があったが、今回は2名の枠に対して3名の募集があった。数は少ないが、3人とも20代の方で選考に悩むほど良い応募者が集まったことは非常に良かったと感じている。

閉会

(省略)